

1. これまでの取組について

取組の背景・目的

■市中心市街地では、新施設「おにクル」やJR・阪急両駅前エリアなどで新たな拠点形成に向けた事業が進行している。これら各事業の効果を波及させていくことが必要

【課題】

- ・歩道が狭く、自動車中心の道路で、自転車利用も多く、歩道上で歩行者・自転車の錯綜が見られ危険である。
- ・座る場所が少なく、滞在しにくく、通りすぎる歩行者が多いため、にぎわいに欠けている。
- ・通り全体のイメージの共有や空間活用の視点が不足している。
- ・将来、一方通行化の構想がある。



- 歩道幅員だけでなく、道路空間としてゆとりがない。
- 交通量は減少傾向にあるものの大型車両も含めて、**交通量が多い**。
- 建物前のオープンスペースが少なく、**休憩・滞留空間に乏しい**。
- 商店街など店舗が連続する部分が限られ、**通り全体の賑わいにつなげない**。
- 沿道の土地利用などが通りごと、エリア(JR側、阪急側)ごとで異なり、**通りの雰囲気等が異なる**。
- 街路灯や安全柵などのデザイン、街路樹の樹種や設置位置などに**統一感がない**。

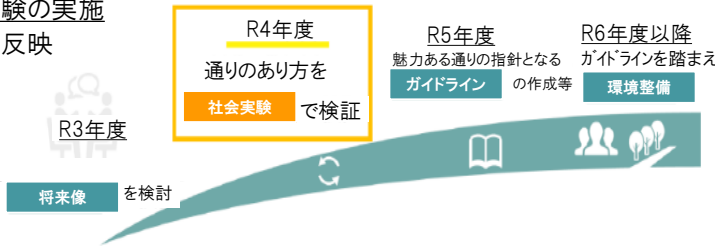


【目的】

道路空間と沿道建築物が一体となった、歩きやすく歩いて楽しく滞在や活動したくなるような魅力ある景観形成を図り、各拠点のにぎわいを面的に広げ、中心市街地の活性化に寄与する。

■スケジュール

- 令和2年度 現況調査
- 令和3年度 ①ワークショップ、勉強会による将来像の検討
- 令和4年度 ②空間のあり方の検討、③社会実験の実施
- 令和5年度 ④ガイドライン策定・景観計画への反映
- 令和6年度以降 ガイドラインに沿った環境整備



①将来像の検討

■3回のワークショップ、2回の勉強会等を実施し、通りの将来像について沿道関係者等と検討

【通りの将来像(案)】 ⇨ 多くの意見を聴き、磨きあげていく予定

めざすべき将来コンセプト

人が主役になり、まちの魅力をつなぐ「次ぐ」2つのメインストリート

市役所、新施設・広場などがある中心部と両駅をつなぐメインストリートとして、目的地へ向かう期待感や魅力的な雰囲気を演出する空間をデザインし、ストリートの魅力をまち全体に広げていく。

めざすべき将来像に基づくストリートイメージ

- ①人と人との「ワン・コミュニケーション」を楽しめるストリート **点** スポットづくり 滞在空間
気軽に立ち寄れるオープンなお店の店先やゆとり滞りできる空間で、ささやかなコミュニケーションが自然と生まれ、通りを行き来する人のゆとりや豊かさを感じることのできるストリート
- ②沿道の賑わいや季節を感じ、「ワクワク」が高まる歩きたくなるストリート **線** 通り全体での魅力的な雰囲気づくり
自然や季節、お店の賑わいなどを感じながら、新施設などの目的地に向けて気分が高まるストリート
- ③まちなかの個性がつながり、「ふらっと」歩き回りたくなるストリート **面** 通りからまち全体へ
周辺の商店街や施設、東西軸と交差する路地など、まちなかの多様な個性がつながり、歩き回りたくなる起点となるストリート
- ④ゆったり並んで、安心・安全に歩きやすいストリート **安心** 安心・安全
2人並んで歩いたり、子どもからお年寄りまで車や自転車を気にせず、安心して歩ける安全なストリート



②空間のあり方の検討(将来像の可視化)

■これまで実施した市民ワークショップの結果等を基に、各通りの空間のあり方を検討

North [デザインコンセプト]
中央通り 賑わいと交流を育む親しみやすいみちへ

気軽に立ち寄れるオープンなお店の店先で交流が生まれ、人の賑わいや活動が感じられる通り

【中央通り 将来のイメージ図(素案) & 各要素のデザインの方向性(素案)】



- ＜歩道空間＞
民有地の賑わい・交流が際立つ、楽しく歩けるデザイン
- ＜車道空間＞
自動車と自転車が共存した、安全な通行を担保するデザイン
- ＜民有地＞
賑わい・交流や人の動きが染み出すデザイン

South [デザインコンセプト]
東西通り 身近に潤いを感じる良質で落ち着いたあるみちへ

自然による癒しを感じたり、おしゃれなお店でささやかな交流を楽しむなど、自由に過ごせる落ち着いた通り

【東西通り 将来のイメージ図(素案) & 各要素のデザインの方向性(素案)】



- ＜歩道空間＞
通り全体で潤いや落ち着きが感じられ、ゆったりと歩けるデザイン
- ＜車道空間＞
自動車と自転車が共存した、安全な通行を担保するデザイン
- ＜民有地＞
軒先にも潤いが見える、歩道と協調したデザイン

■プロジェクト名の検討、ロゴの作成

①将来像の検討や、②空間のあり方の検討などを基に作成。メインストリートの取組に幅広く活用



- プロジェクト名 「茨木みちクルプロジェクト」の意図
中心市街地の各拠点をつなぐメインストリートとしての「みち」に、人がたくさん「クル」ことをイメージし、笑顔に満ちた人たちがクルクルと回遊して、中心市街地の活性化につなげていくことを意図
- ロゴの意図
市中心部の新施設『おにクル』や、元茨木川緑地(1パーク)と両駅(2コア)とを2つの通りがつなぐ、織り込むというイメージで体現したもの (赤は「にぎわい・交流」の中央通り、緑は「潤い・落ち着き」の東西通りをイメージ)

中心市街地におけるメインストリート(中央通り、東西通り)の取組について

③社会実験の実施

■本市のメインストリートの空間のあり方を検証するため、社会実験を実施

- 【目的】**
- (1) 通りとしての将来像の可視化
ワークショップ等にて検討してきた将来像を可視化する。
 - (2) 沿道関係者等の機運醸成
将来像の可視化等を通して、沿道関係者等との関わりを深める。
 - (3) 歩行者・自転車の通行の啓発
自転車の適正な通行を促すサインを設置し、啓発を行う。



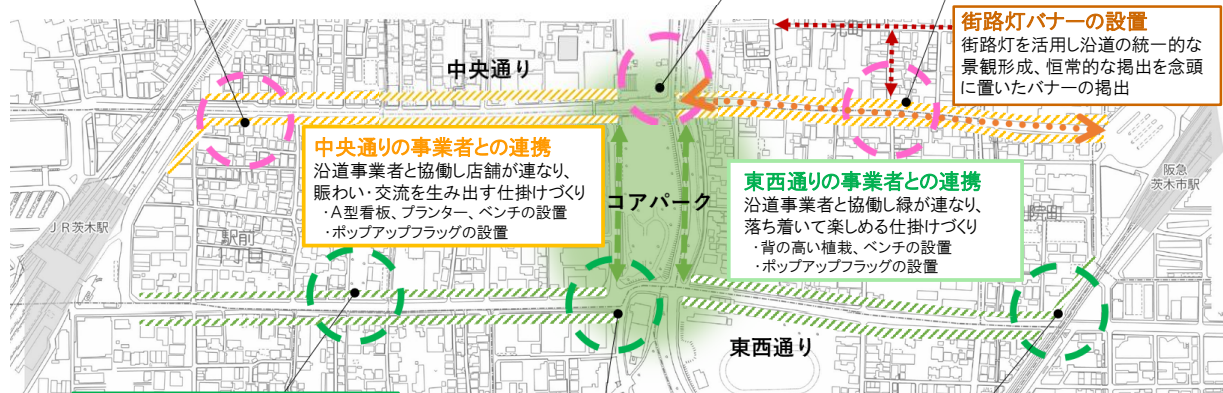
【日程】 2022.11.3(木・祝)～11.30(水) 28日間 (①JR駅前商店街部分のみ11.8～11.13の7日間)
【場所】 中央通り、東西通り
【内容】 沿道店舗の滲み出しによる通りのにぎわいづくり、道路や公園を活用した休憩・滞留空間の創出、沿道事業者との連携による空間演出など



①JR駅前商店街
沿道の飲食店の滲み出しによる通りの賑わいづくりの演出を図る
・テーブル・椅子、社会実験案内看板の設置
・商店街を演出するバナー等の設置

②おにクル北
歩道拡幅後をイメージした、人が行きかう広がりある道路空間活用の将来形を演出する
・ウッドデッキ、植栽の設置
・市民意見を集めるブース等の設置

③茨木心齋橋商店街入口前
商店街との接点で情報発信等を行い回遊を促す
・地域情報案内看板の設置



④東駅前公園
ストリートに面する公園において、休憩空間の充実や利活用を図り、沿道敷地を活用した滞留空間を創出する
・公園内でのベンチ等の設置
・社会実験案内看板等の設置
・イベント等による利活用

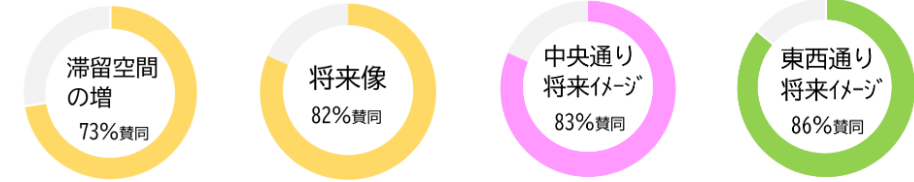
⑤おにクル南
ベンチ等による休憩空間を創出する
・ベンチ、交通啓発看板の設置
・社会実験案内看板等の設置

④阪急茨木駅南
歩道拡幅後をイメージした東西通りの道路上で緑豊かな滞留空間を創出する
・ウッドデッキ、植栽の設置
・社会実験案内看板等の設置



■アンケート結果等

(1) 通りの将来イメージを可視化することができ、通りの将来像や将来イメージについて、概ね賛同を得ることができた。
・「滞留できる空間の増加は望ましい」が7割強、・将来像や各通りの将来イメージに「共感する」が8割強



(2) 82店舗と多くの沿道店舗の協力を得ることができた。(協力内容:ポップアップフラッグ、A型看板、プランターなど) 一方で、1回の社会実験では沿道形成に対する機運が高まったとは言い難い。

(3) 通行の安全面(歩車分離や歩道拡幅)に関する課題解決や緑量の増加、社会実験の継続を望むご意見などがあつた。

<主に行政に望むもの>

- ・通行の安全面に関する課題解決に向けた取組み
- ・洗練された道路空間デザインの検討

<主に民間に望むもの>

- ・沿道店舗が連携・協力して一体的な取組を実施
- ・滞留や休憩ができる空間となるよう軒先を活用

[沿道協力内容例]



ポップアップフラッグ ポップアップフラッグ&A型看板 プランター ストリートプラント

2. 今後の予定について

④ガイドライン策定・景観計画への反映

■ガイドラインのイメージ

歩きやすく、歩きたくなる魅力的なメインストリートを官民が連携して実現するための指針

- ・道路空間と沿道空間における「デザインの方向性・方針等」
- ・道路空間と沿道空間が連携して「利活用を促進するための方針等」

■景観計画への反映

- ・中央通り、東西通りを「景観重要公共施設」に位置付け
- ・建築物等のデザインの指針・基準を「景観形成基準」に反映

■ガイドライン構成イメージ(案)

- 1 はじめに
背景、目的、対象範囲、目標時期など
- 2 目指すべき将来のメインストリート像
基本的な考え方、通りの将来像など
- 3 デザイン指針
各通りのデザインコンセプト、デザイン方針など
- 4 マネジメント指針
道路空間、沿道空間の利活用促進の方針など
- 5 実現に向けて
ロードマップ・推進体制など



<静岡県沼津市>

<愛知県豊橋市>